

サポセン  
があるよ

青森市の子育てを応援しています

vol. 26

2021.12.6 発行

# サポセン通信

サポートセンター  
ふうしん



青森市子育てサポートセンターでは、家庭教育に関する学習機会の提供（青森市内の小中学校で行われている家庭教育学級の運営サポート、子育て講座《きらきら塾》や発達に心配のあるお子さんに関する講座《うとう塾》の企画運営）、情報収集、発信、また子育て相談の対応等を行っています。

## サポちゃん

「1人1台タブレット」



## より良く生きていくための「お助け教室」

《第2回》うとう塾

6/18 開催

### 教育支援室ってなあに？ ～この子にあった学びの場を～

子どもが生き活きと楽しく学校生活を送れるように、子どもにふさわしい学びの場の紹介や決定するための手続きと、通級指導教室と特別支援学級についてお話をお聞きしました。

最初に、青森市教育委員会・教育支援室の久慈木代奈さんから、障がいのある子ども又は疑われる子どもの就学について、教育支援委員会を設置し調査審議することや、保護者に就学相談の機会を提供することが紹介されました。就学相談は、その子にとって「望ましい教育の場を保護者と共に話し合い、考えていくこと」を目的に行われます。

就学先として①特別支援学級 ②通級指導教室 ③特別支援学校があり、それぞれの支援内容について説明がありました。

教育委員会が就学先を決定するまでに、A票を提出することから始まり結果案内までに約3ヶ月かかることや特別支援学校への入学・転校希望は10月中旬までの申請です。子どもの成長や環境の変化により、支援学級⇄通常学級の変更も可能とのこともありました。

次に、実際に子どもたちに指導を行っている青森市立浪打小学校・ことばの教室：井上美樹子さんと、まなびの教室：田中優子さんからお話をお聞きました。

通級指導教室とは、各教科等の指導は主として通常学級で行いつつ、学習や生活場面で生じる困難を改善・克服を目的に、個々の状態に応じた特別指導「自立活動」及び「各教科の補充指導」を行う特別な教育形態であり、将来の自立に向けてできることを増やし、より良く生きていくための「おたすけ教室」と話されました。

### 『うとう塾』ってなあに？

発達に心配（発達の偏りや遅れ）のある4歳～小学校中学校までの保護者や関心のある方を対象に、専門知識を持つ講師をお迎えして、年5回開く子育て講座です。



講師：久慈木代奈さん  
(青森市教育委員会・教育支援室)



ことばの教室：井上美樹子さん  
まなびの教室：田中 優子さん  
(青森市立浪打小学校通級指導教室教諭)

### ■「ことばの教室」

言語障害の指導⇒構音器官の運動の調整（舌の使い方、口の体操等）や話す意欲を高める等。

### ■「まなびの教室」

①LDの指導⇒話す・聞く・読むなどの指導やソーシャルスキルトレーニング、障がいの理解や自己理解等。

②ADHDの指導⇒不注意による間違いを少なくする指導、衝動性や多動性をコントロールする指導、ソーシャルスキルトレーニング、障がいの理解や自己理解等。

※言葉だけでなく、視覚化（タイマーや連続したカレンダー等）して伝えたり、ふり返りを行うことで頑張りの確認（頑張りシール）を共有したり、ソーシャルスキルカードを利用し社会ルールを伝えている。

最後に進学を見据えての紹介は、中学校（浦町中・浪打中）では、LD・ADHD通級指導教室（サポートルーム）のみ開設され、自立活動を中心に行っています。高等学校（北斗高校）でも、通級による指導を行っていることを紹介してくださいました。



### 問合せ先

〈教育支援室〉017-765-1507 ⇒ 就学先決定に向けた手続きや相談の流れ（通級希望時も同様）  
〈教育相談室〉017-743-3600 ⇒ 子どもの発達や成長・学習などの相談

# あしえて！ 岩田先生！！

《岩田先生プロフィール》  
臨床心理士、公認心理師。スクールカウンセラー一歴16年。小・中・高に出向しています。ただ今子育て真っ最中。



岩田 彩子さん

## しつもん

小4の男の子の親です。  
息子はスイッチが入ると口も心も閉ざし、何も話さなくなります。  
最近、登校しぶりもあり、休みたい理由や、何が嫌なのか？困っているのか？聞けずに困っています。

## 先生からのお返事

話を聞きたい親と口も心も閉ざす子どもとの対立。親は突破口をつかめず、もどかしい気持ちでいることでしょう。小学3～4年になると、子どもは他人と比較して自分のことを意識するようになります。つまり、自分を客観的にみるようになります。すると、「あの子は出来るのに、自分は…」と自信をなくすことがあります。

もしかしたら、お子さんは自分の出来ない部分と距離をとりたくて、今は話したくないのかもしれない。そうだとすると、その話題を切り込まれることは傷口に塩を塗られる感じがするのかもしれない。あえてスイッチを入れて（気合をいれて）話さないという行動をしているのかなとも想像します。

そうならば、本人が話し出すのを待ってみませんか。童話「北風と太陽」の太陽の関わりです。旅人から無理やり服を脱がそうとするのではなく、自分の意思で安心して服を脱ぐような関

わりです。本人が楽しみにしていることや好きなこと、話したいことでお互いの緊張をやわらげるのです。その流れで「あのさ…」と言えないでいたことを話し始める可能性もあります。その時は、親の経験や意見を挟まずに、じっくりとお子さんの話にうなずき、脱いだ服を一緒に畳みましょう。まずは口と心を開いてもらうことです。

他県のデータですが、平成30年度静岡県子ども・若者実態調査では、小学生が困ったときの相談相手として親をあげる割合は60%でした。中学生になると48%と下がりますが、子どもは親を頼りにしていることがわかります。時に反抗的な態度を見せるときもありますが、この数字を思い出して焦らず、せかさず、どんな話でも大切に聞くよというメッセージを子どもに伝えることが、子どもとの対立を緩和していくだろうと思います。

## 人に伝えることで自分の気持ちを見つめる

《第2回》きらきら塾

8/27 開催

### ママのリフレッシュタイム ～思いを聞いてもらってスッキリ～



沼田さんは「自身の子育ては、知らず知らずのうちに自分が親から教えられたことや、されていたことをして

います。その方法が、間違っていたことに気づいたら直せば良いですし、良かったことは伝えていくべきです。そして、自分自身の考えや気持ちに気づくことが大切で、そのために親は学ぶ必要があります。」とお話になり、参加者は終始うなづいていました。人に伝えることで自分の気持ちを見つめることができることや、人への寄り添い方の大切さとその効果を学ぶことができた講座でした。



講師：沼田 久美さん  
(NPO法人子育て応援隊  
ココネットあおもり代表)

講師にココネットあおもり代表の沼田久美さんを迎え、子育て中に感じるイライラや日頃感じている自分の思いを、相手に伝えるための伝え方や聞き方を体験しました。最初に、3つのグループ（幼児・小学生・中学生以上のお子さんをお持ちの方）に分かれ、「気持ちを聞くこと」のワークからグループトークが始まりました。

自分が気になることや困っていることを付箋に書き、グループ内で参加者にわかるように発表しました。自分の思いを書き、聞いている人に伝わるように話すことで気持ちが整理できる体験をしました。たくさんの気になることを出し合い、グループ内で2つテーマを決めて話し合いました。

悩みを自由に話すことで、他の参加者が経験してきた体験や励ましの言葉を聞くことができ、一人一人の感じ方や考え方がることを学び合いました。

### 参加者の感想

- \* 気持ちをくむとは、その人の心を開くこと。自分はしているつもりだったが、今回の話を聞いて、問いつめたり、アドバイスせずに、心の声、話を聞く余裕をもっていたい。
- \* 聞くことの大切さや効果を実際に学ぶことができてよかったです。話をすることでストレス発散になったり、話を聞くことで自分の学びになり、人と話す機会をもつことがどれだけ有意義かを再確認できました。
- \* 皆さんとグループトークをすることによって、「聞く」のがとても勉強になり楽しかったです。
- \* 人に伝えるということの大切さがとても大事だということ。自分の気持ちを話すすとスッキリするということ。
- \* 自分の悩みも話すことができ、みんなの悩みも聞くことができてよかったです。

## 青森市子育てサポートセンター

【TEL・FAX】017-774-6537（開設時以外は、留守番電話をお願いします。）

【住所】〒030-0813 青森市松原1丁目6-3 サンピア（勤労青少年ホーム）2F

【開設日時】毎週火曜日 10:00～13:00

【E-mail】aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp 【ブログ】http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara

